

平成28年度 知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業「年間指導報告書」

様式5

学校名：鹿児島県立串良商業高等学校

学校長：西 博文

学校長職印

1. 指導目的・目標 (指導対象(学年、学科、科目、部活動、同好会等)により目的・目標が異なる場合は、それぞれ明記してください。)(当初の目的・目標から変更した点があれば、それらが分かるように明記してください。)

- ① 地域社会と連携した取り組みを通して知的財産権の理解，創造力・実践力・活用力を身に付けた人材の育成。
- ② 地域企業や小・中学校と連携し知的財産教育を実践し，人材の育成を図る。
- ③ パテントコンテスト（デザインパテントコンテスト）に応募する。
- ④ 全国産業フェスタ等各コンテストに参加し，他校の取り組みを学習する。
- ⑤ 商業高校フードグランプリに応募する。

2. 対象生徒・学生と実施形態 (学年、学科、科目等毎にテーマが異なる場合は、それぞれ明記してください。)

学年	学 科	科 目 / 形 態	指導教員	対象クラス数	対象生徒数
全校	両学科	LHR	17名	10	287
3	両学科	課題研究／選択	5名	4	10
3	両学科	商品開発／選択	1名	4	5・17
3	情報処理科	マーケティング／選択	1名	2	11
3	情報処理科	電子商取引／選択	1名	2	4
3	総合ビジネス科	経済活動と法／クラス	2名	2	30・31
3	総合ビジネス科	広告と販売促進／選択	1名	2	11
2	総合ビジネス科	課題研究／クラス	2名	1	32
2	総合ビジネス科	マーケティング／クラス	1名	1	32
2	情報処理科	プログラミング／クラス	4名	2	41
1	両学科	ビジネス基礎／クラス	3名	3	89
1	両学科	情報処理／クラス	5名	3	89

3. 指導内容の概略 (指導対象(活動した学年、学科、科目、部活動、同好会等)で内容が異なる場合は、それぞれ明記してください。実際に行なった指導についてのみ明記してください。様式2「学期指導計画書」の指導Noを記載してください。活動経費を使用して取り組んだ事項は漏れなく記載してください。)

段階	主 な 指 導 内 容 (校外活動の場合は活動場所を付記)	指導対象	生徒数	時間数	指導No
計画 (導入)	<ul style="list-style-type: none"> ○校内体制を整え，実施計画の検討 ○事業説明会参加 ○ブレインストーミングとKJ法によるアイデア創出 ○関連書籍の購入 ○知財教育の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストを活用した知財教育 〃 ・ホームページ(はすねす) ・商品開発(LINEスタンプ) ・弁理士による講演会 ・校内でデザインパテントコンテストに向けて応募 ・若葉フェスタに参加準備 ・農業祭に参加準備 ・商業高校フードグランプリ準備 ・商品開発アイデア検討(ボキレンジャー実写化) ・商品開発アイデア検討(簿記カルタ) ・商品開発アイデア検討(ふりかけ) ・高校生なるほどアイデアコンテスト応募 ・中学生の1日体験入学で知的財産学習 	職員		2	
		職員		4	
		3年課題研究	10	4	①
		全校生徒	287		②
		商品開発(情処)	5	2	⑥
		商品開発(総ビ)	17	2	⑥
		電子商取引(情処)	4	2	⑥
		商品開発(情処)	5	2	⑤
		全校生徒	287	4	③
		全校生徒	287	1	③
		マーケ部	10	2	②
		課題研究	3	1	②
		課題研究	3	2	⑤
		商品開発(総ビ)	17	5	⑤
		商品開発(情処)	5	5	⑥
		課題研究	10	2	⑥
マーケ(情処)	11	2	⑥		
職員・中学生			6	⑤	

実施 (展開)	<p>6月 弁理士講演会・職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権・アイデアの発想・組み合わせ方、具体的な取り組みが出来ました。 ・職員研修を通して、各科目で日常的に話題にできることや、課題を見つけることがアイデアへの第1歩につながるようになりました。 	全校生徒 職員	287 25	2 1	③
	<p>6月 ボキレンジャー実写化に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元のヒーロー「細山ライ田一」の代表の方に来校していただき、ご当地ヒーロー誕生までの道のりや工夫したところ、役割分担、ネーミング、材料などいろいろ聞かせていただきました。 ・離島戦隊タネガシマン→離島閃隊になった話も参考になりました。 	商品開発 (総ビ)	17	1	③
	<p>7月 フードグランプリ出場</p> <p>パッケージデザインに鹿児島県の公式キャラクター「ぐりぶー」を使用した「だっき商ドレッシング」をフードグランプリにエントリーし、審査員特別賞(キューピー賞)受賞。原材料のラベルについての表示の仕方を学ぶ。また、原材料の表示の細かい規定も学ぶことが出来ました。</p> 	課題研究	3	2	⑤
	<p>7月 ラインスタンプ作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商品開発の中でラインスタンプを考え、「ボキレンジャー」というキャラクターの第2弾を考案。リジェクト項目が3つあり、寄付行為や赤十字を使用できないことを学ぶ。 「(c)nakanakaakinaiproject2016」というコピーライトをつけ、保護することを学ぶ。 ○地域別交流会3名参加。福岡で活動の様子を発表。紙コップを使ったアイデア発想のワークショップを体験する。 ○デザインパテントコンテスト <p>コンテストに向けて、校内デザインパテントコンテストを実施。全校生の中から161件の応募があり、19件に絞り本選参加を目指す。最終的に9件応募。</p>	商品開発 (情処)	5	10	⑤
	<p>11・12月 商標権と商標登録の学習</p> <p>森田海幹弁理士を招き、講演会を実施。商標登録についての学習。知財についてのディスカッション</p>	全校生徒 総ビ 2・3学年	287 93	2	⑥

	<p>ロゴマーク考案。アイデア発想ワークショップ</p> <p>ロゴマーク考案。アイデア発想ワークショップ</p> <p>アイデア発想ワークショップ</p> <p>アイデア発想ワークショップ</p> <p>1 1 月 電子商取引 ネットショッピングモール「はすねす」参加を目指して、システムフューチャー株式会社の松下隆幸氏を招き、ネット上の注意点等を学ぶ。</p> <p>1 1 月 サンフェア石川に3つの商品を委託販売の準備 (だっき商ドレッシング・ドレミソ美豚・簿記カルタ) 30本・ 20個・20個 販売</p> <p>1 0 月 各種コンテストに応募 高校生なるほどアイデアコンテスト(大分大学) ビジネスプランコンテスト (日本経済大学)</p> <p>1 1 月 知的財産教育セミナー参加(鶴翔高校)</p> <p>1 2 月 知的財産教育セミナー参加(加治木工業高校)1日 〃 半日</p>	<p>商品開発(情処) 商品開発(総ビ) 総ビ1年 総ビ2年 電子商取引 (情処)</p> <p>商品開発 (情処)</p> <p>マーケ(情処) 商品開発 (情処) 職員2 職員2 職員1 1年生</p>	<p>5 17 26 32 4</p> <p>5</p> <p>11 5</p> <p>6 6 6</p> <p>26</p>	<p>2 2 2 6 6</p> <p>2</p> <p>2 2</p> <p>6 6</p> <p>2</p>	<p>⑥</p> <p>⑥</p> <p>⑥</p>
まとめ (整理)	<p>a. 知的財産教育講演会 アイデアを考える上でまず大事なものは、身近にある課題を見つけることであることを学ぶ。課題が見つければ、モノ×モノやモノ×コトなどを組み合わせてみるとよいコトを知る。まずは、身近な課題を整理する必要がある。</p> <p>b. 商品開発</p> <p>○タルトについて 昨年度、近くのコンビニでも販売できるようになるが、常に置いていただけるようにはならず検討が必要。</p> <p>○ドレッシングについて 地元ピーナッツの安定供給元の確保が必要。 販売促進のための企画力の育成。</p> <p>○ラインスタンプについて ラインスタンプは昨年度、学校アカウントを取得したのでリリースまでできた。NEWバージョンのボキレンジャースタンプを作成し販売開始をしたが、今度は専門的すぎてスタンプを利用する場面がなかなかなく、販路拡大の取り組みを考える必要が出てきた。また、新しいデザインでの日常会話版も検討している。ラインスタンプを作る際、知的財産権に配慮したデザインを考えなければならない。</p> <p>○簿記カルタについて 昨年度、新聞・テレビに取り上げていただき、販売していないのかという問い合わせもあったが量産するにはまだまだ見直しが必要。サンフェア石川で反応を調べてみようかと、20個用意した。 前回のカルタは簿記用語の基本的なものが多かったので、第2弾ではより上級のフレーズを取り入れてみて状況を把握したい。</p> <p>○ボキレンジャー 実写化に向けて、材料を集め模索中だがなかなか形が定まらない。まずは、3Dのプロトタイプモデルを作ってみるのも良</p>	<p>全校生徒</p> <p>マーケ部</p> <p>課題研究</p> <p>商品開発 (情処)</p> <p>商品開発 (情処)</p> <p>商品開発 (総ビ)</p>	<p>287</p> <p>10</p> <p>10</p> <p>5</p> <p>5</p> <p>17</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>③</p> <p>⑤</p> <p>⑤</p> <p>⑤</p> <p>⑤</p> <p>⑤</p>

<p>いかと考えている。ストーリーも中途半端なので、絵本を作ってみようかとも考えている。</p> <p>○デザインパテントコンテスト</p> <p>c. アイデアはもちろんだが、それを紙面に書き出すことが大変であることが分かった。今回は主に形を作ってみて写真で作成してみたが、図面にしやすい方法等あれば活用したい。</p> <p>d. 商標権と商標登録について ロゴマークを生徒に考えさせたいが、生徒の関心が低く取り組み状況は良くない。弁理士さんにヒントをいただきながら模索中である。 「なかなかあきないプロジェクト」としてブランド戦略を図りたいが、いざ登録となると、資金の出所がなく、あくまでも学習の範囲に留まりそうである。</p> <p>e. 電子商取引 ネットショッピングモールに参加する上で、年度が替わっても引き継げるよう手順を整理する。</p> <p>f. 全国産業教育フェア 発表できるような環境づくりと取り組みをしたい。</p> <p>g. 各種コンテストに応募 アイデアを生み出すために今どんな課題があるのかを調べる必要がある。</p>	<p>全校生徒</p> <p>2 8 7</p> <p>2</p> <p>⑥</p>
	<p>商品開発 (両学科)</p> <p>5 1 7</p> <p>5</p> <p>⑥</p>
	<p>電子商取引 (情処)</p> <p>4</p> <p>2</p> <p>⑥</p>
	<p>課題研究</p> <p>1 0</p> <p>4</p> <p>⑥</p>
	<p>課題研究 選択マーケ</p> <p>1 0 1 1</p> <p>2 2</p> <p>⑥</p>

4. 指導内容及び成果(実際に行なった指導について御記入ください。指導対象(活動した学年、学科、科目、部活動、同好会等)で内容が異なる場合は、それぞれ明記してください。)

1) 全般

1-1) 知的財産権制度に関する知識・実務を修得させるにあたっての着眼点は？ どこに重きを置いて指導しましたか？

- アイデア発想のトレーニング
- 相手の意見を受け入れる姿勢作り

1-2) 指導計画どおりに進捗しましたか？ 指導の目標は達成されましたか？具体的に御記入ください。

(当初計画からの見直しがあった場合、「見直した理由」と「進捗・達成度」を記入して下さい。)

- 6月の講演会后、早い段階でデザインパテントコンテストへ繋がれば良かったのだが、商業科は検定試験の時期で、案内することを躊躇してしまった。2016年度の本選コンテスト応募申込可能が7月中旬ということもあり、来年度は全体的に前倒しできるよう工夫したい。しかし、デザインパテントコンテストに参加したことは大きな一歩であった。
- サンフェア石川へ「展示販売」の形で参加したが、「作品展示」でなければ予算が付かないことが後からわかった。来年度は、「作品展示」で参加できるように準備したい。商品開発できたものを販売したことは少し前進といえる。
- 弁理士を呼んで講演会やフィールドワークを行えた。
- 各種コンテストに応募してアイデアを発信することができた。
- ボキレンジャーの実写化に向けての活動は、キャラクターが新旧バージョンありきちんと方向性が定まらないまま終わってしまった。生徒の意欲を高め、活動させる機会や材料が足りなかった。来年度、検討が必要である。
- 300kmという制約がありながらも、九州内で参加できるコンテストもあり挑戦したことは良かったが、本選出場までは至らなかったの由来年度は、早い段階からアイデアを考えさせたいと思う。

1-3) 知的財産学習について、生徒・学生の反応・理解度はどうでしたか？ (アンケート等の定量的把握を行なった場合は、その結果も御記入ください)

- 興味を持って取り組んでいた。
- アイデアを形にすることの難しさを実感していた。

1-4) 知的財産学習について、生徒・学生の成果を上げるために工夫された点はありますか？

- 具体的なアイデアが出ないので、ペーパークラフトを作成させ、立体的な物のイメージを掴ませようとした。
- ペットボトルの蓋の所に付けたアイデア商品を紹介した。
- 加治木工業で知的財産教育セミナーがあり、クラス単位で参加させた。
- 校内デザインパテントコンテストを実施する際、「そらまめん」の写真を活用したり、過去の入賞作品を紹介したりした。
- 商品開発について、地元のニーズは何かを調査するため、鹿屋市役所や志布志観光協会へ話を聞きに行った。
- 鹿屋の副市長(福井逸人さん)と地域おこし協力隊(半田あかりさん)に来校していただき、鹿屋市で活動している様子を伺った。
- ロボット「ペッパー」や3Dプリンタを所持している地域のクリニックにおいて、生徒が何かできないか模索した。
- 各種イベント販売において、PRするためのPOP作りをした。
- 「広告と販売促進」において、商品開発した物のキャッチフレーズを考えた。
- 修学旅行でカップヌードルの工場見学と体験をとおして、物作りのヒントを得た。
- 商標登録を考える際、インターネットを用いてすでにあるロゴマークを調べさせた。
- 商品開発を考える際、地元の特産品や特色についてインターネットを活用した。
- デザインパテントコンテスト応募のために、特許情報プラットフォームを活用した。

2) 指導方法で工夫した点・改善した点

2-1) 知的財産権の指導をどのように行いましたか？(工夫・改善した点を中心に御記入ください。)

項 目		内 容
座 学 (セミナー・講演会を含む)	a) 内容(知財との関連付け)	全体講演会でアイデア発想法を学ぶ。
	b) 成果	身近な課題は何かを考える事が発明のヒントであることを知る。
	c) 成果を収めた理由	生徒の感想に多く書かれていた。
	d) 苦心した点	全体講演となると、恥ずかしがって自分の意見を言わない生徒がいた。
	e) 改善が必要と思われる点	講師に頼りすぎて、自分の言葉で知的財産権の大切さを語る事が難しい。 生徒の考える力を引き出す仕掛けの工夫が必要である。
実 習	a) 内容(知財との関連付け)	○商品開発
	b) 成果	○地元の活動やニーズを調べ、新しい商品へのヒントを得た。
	c) 成果を収めた理由	○地元で「カンパチ」をアピールして、ふりかけを作った会社があり、聞き込みで、お茶の需要が減っていることを知り、2つを合わせた商品ができそうである。
	d) 苦心した点	○生徒が考え、行動できるようなヒントの出し方に苦労した。
	e) 改善が必要と思われる点	○試作品を作るとき、教員側で用意した物を使っていたので、何をしたいからどんな材料が必要かといった、より具体的な企画書を生徒に作ってもらう必要がある。

3) 校内における指導支援体制

3-1) 学校全体として、どのような支援体制が組まれていますか？

知的財産担当教員数(合計)	5名	
知的財産委員会	設置年	H26年度
	現在委員数	7名
	(内、管理職数)	3名
開催形式・開催状況	○6月に全校生徒対象に講演会を実施 フィールドワークもあり皆楽しんでいた。 ○複数クラス合同での講演会や単独クラス・選択クラスでの講演会やフィールドワークも実施。 少人数で実施した方が生徒の反応が良かった。	
支援内容	○講演会・フィールドワーク・企業との協力など	

支援体制の効果等	<input type="checkbox"/> 知的財産とはどういうものかを知る。 <input type="checkbox"/> アイデアを生み出そうと自ら考えるヒントを学ぶ。 <input type="checkbox"/> デザインパテントコンテストの応募ができた。 <input type="checkbox"/> 各種のアイデアコンテストへチャレンジすることができた。 <input type="checkbox"/> 商品開発ができた。
教員・教官の研修	<input type="checkbox"/> 校内外の講演会へ参加し学習を深めることができた。
前年度の調査報告書（他校による報告も含む）の有効活用	<input type="checkbox"/> 講演会の講師を紹介してもらい、実施することができた。 <input type="checkbox"/> 商標登録について学ぶことができた。

4) 年間行事

4-1) 学校の年間行事に、知的財産に関連するものがありましたか？ 実施した行事名称およびその内容を御記入ください。

- 行事名称：知的財産講演会
内 容：知的財産とは何か。アイデアはどうやって生み出すものか。
- 行事名称：校内デザインパテントコンテスト
内 容：本選出場を目指し、全校生徒で取り組む。
- 行事内容：修学旅行
内 容：カップヌードルの工場見学と体験をとおして物作りについて学ぶ。

5) 成果

- 5-1) この開発事業に取り組んでどの様な成果がありましたか。具体的な事例を用いて御記入ください。
- 商業高校は資格取得だけではないということを知り、小・中学生や保護者、地域の方々に知ってもらった。
 - 商品開発した商品を買いたいという問い合わせがあった。
 - 簿記カルタがクスマッチの種目として取り入れられた。
 - 学校紹介・イベント販売で、学校や商品の宣伝に役立った。
 - ブレーンストーミングなどアイデア発想トレーニングを実施し、みんなの意見を肯定的に受け止めるようになった。
 - 常に問題意識を持って行動する生徒・職員が増えてきた。

5. 今後の課題 (活動した学年、学科、科目等で内容が異なる場合は、それぞれ明記してください。)

- 1) 今年度の指導目的・目標のもと指導を実施して、今後考慮していきたい点がありましたら御記入下さい。
 - 弁理士さんと協力を密にし、アイデアを形にしていきたい
 - ロゴマークや商品のラベル、パッケージなどデザインに関する学習の機会を増やしたい。
 - デザインパテントコンテストの応募がしやすいように、3D表現しやすい環境を充実させたい。
- 2) 本事業における取組を展開するにあたり、指導方法、学校における支援体制等、考慮すべき点があれば、具体的に御記入ください。
 - a. 知的財産教育講演会を毎年実施し、知的財産への興味関心を高めるとともに、理解の促進と知的財産学習の定着を図る。
 - b. 商品開発
 - 地域社会と消費者のニーズを的確に捉えた商品開発を目指す。
 - どの商品についても広報活動において、知的財産を侵害しないよう留意してチラシやPOP・ホームページなどを作成できるようにする。
 - c. デザインパテントコンテスト
学校全体で取り組む大きな活動としての定着と、アイデアを形にできる環境作り。
 - d. 商標と商標登録
「なかなかあきないプロジェクト」のブランドイメージが湧くロゴマークを決め、地域を巻き込んだ取り組みをしていく。
 - e. 電子商取引
販売サイトを構築し、今後開発した商品をネット販売できるような流れを作っていく。地域の商品も紹介していきたい。その際、情報モラルに気を付けさせる。
 - f. 全国産業教育フェアで発表できるような取り組みにしていく。
 - g. 各種コンテストで本選に残るようなアイデアを考える。

3) その他(自由記載)

- 大隅地区の専門高校フェスタでアイデアを出し合い、農業科で生産したものを工業科で作成した

道具を使い，家庭科で考えたレシピを使って調理科で調理し，商業科でラベル作成・広告販売できるようにしたい。

6. 使用した教材（特に効果の高かった教材等の紹介をしてください。図表等を使用の場合は別紙として添付して下さい。）

- 産業財産権標準テキスト（総合編）独立行政法人工業所有権情報・研修館
- 商品開発（実教出版） ○マーケティング（東京法令出版） ○特許情報プラットフォーム（w e b）
- 経済活動と法（東京法令出版） ○広告と販売促進（実教出版）
- 電子商取引（実教出版） ○w e bで学ぶ電子商取引（実教出版）

7. まとめ（直接指導にあたった教員として、指導活動と成果に対する率直な意見や感想を御記入ください。）

- アイデアの創造を急がせることは危険だが，リミットを設定する必要も有り，生徒のやる気を引き出す工夫が必要である。
- 適材適所で生徒の個性や特長を上手く引き出せる観察力を身につけたい。
- 色々なアイデアや意見に対し，寛容でありたいと思いつつ，自分の意見を押しつけてしまうことがある。
- 学校全体で取り組めるような体制作りが課題である。

報告作成日	平成28年12月14日
担当教員	教諭 吉福 知明

「本資料内の写真，イラスト，引用文献等の承諾が必要なものにつきましては，権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

学校番号	商 1 4		
学校名	鹿児島県立串良商業高等学校	担当教員/ 教授名	吉福知明
学校情報	所在地：鹿児島県鹿屋市串良町岡崎 2496 番地 1 TEL：0994-63-2533、FAX：0994-63-2534、URL：www.minc.ne.jp/kushirashoko/		

ねらい (○印)	a) 知財の重要性 b) 法制度・出願 c) 課題解決 (創造性開発・課題研究・商品開発等)
関連法 (○印)	d) 地域との連携活動 e) 人材育成 (学習意欲向上、意識変化等) f) 学校組織・運営体制
	a) 特許・実用 b) 意匠 c) 商標 d) 著作権 e) 種苗 f) その他 ()

タイトル 目的・目標要約	地域社会と連携した取り組みを通して知的財産権の理解，創造力・実践力・活用力を身に付けた人材の育成。
目的・目標 ・取組の背景	<p>(目的・目標)</p> <p>○地域企業や小・中学校と連携し知的財産教育を実践し，人材の育成を図る。</p> <p>○各種コンテストに応募してアイデアを生み出すきっかけ作りをする。</p> <p>(取組の背景)</p> <p>地元志向でありながら高校卒業後，進学や就職で地元に残らない子もいれば，残れない子もいる。どこにいてもアイデア次第で成功するチャンスはいくらでもあることに気づき，創造力を育てたい。また，資格取得だけではなく，創造力・実践力・活用力を身につけることで，どこへ行っても通用する人材を育てたい。さらに，地域社会と連携する中で地域の良さを再確認し，新たな発見をして地元愛を育てたい。また，学校で取り組んでいる事を発信することにより，地域との協力関係を築き，進路選択のきっかけになって欲しい。</p>
活動の経過 (知財との関連)	<p>6月 弁理士による講演会・職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権・アイデアの発想・組み合わせ方，具体的な取り組みができた。 ・職員研修を通して，授業の中で日常的に話題にできることを学ぶ。 <p>7月 商品開発の中でラインスタンプを考え，「ボキレンジャー」というキャラクターの第2弾を考案。コピーライトと，寄付行為や赤十字を使用できないことを学ぶ。</p> <p>7月 フードグランプリ参加。ラベルの決まり事を学ぶ。</p> <p>8月 地域別交流会3名参加。アイデア発想のワークショップを体験する。</p> <p>7月～9月 デザインパテントコンテスト</p> <p>校内デザインパテントコンテストを実施(161件)本選応募(9件)。</p> <p>11月～12月 商標権と商標登録の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弁理士を招き，講演会を実施。商標登録についての学習。 ・知財についてのディスカッション・アイデア発想ワークショップを実施した。 ・ネットショッピングモール「はすねす」参加を目指し，注意点等を学ぶ。 <p>10月 各種コンテストに応募。(なるほどアイデアコンテスト(大分大学)など)</p> <p>12月 商品開発アイデア検討(新簿記カルタ・ふりかけ)</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動をとおして，知的財産について知る機会が増えた。 ・各種コンテストへ初応募多数。自分のアイデアを発信する機会ができた。 ・フードグランプリ特別賞受賞。また，原材料の表示の細かい規定も学ぶ。 ・講演会で商標・特許等について学ぶ。ロゴマークを考案。

「本資料内の写真、イラスト、引用文献等の承諾が必要なものにつきましては、権利者の承諾を得ていることを申し添えます。」

<写真・図表等掲載欄>



5月GOGO若葉フェスタ販売活動



5月農研祭 「ぐりぶー」使用許可を取る。



6月 知的財産講演会



6月 職員研修



8月 フードグランプリ 特別賞



8月 中学生1日体験入学(知的財産学習)



11月 商品開発(ふりかけ)



12月 特許権・商標権学習